

保護者のための インターネットセーフティガイド

～インターネットの安全利用と家庭教育のヒント～ ダイジェスト版 Ver1.0

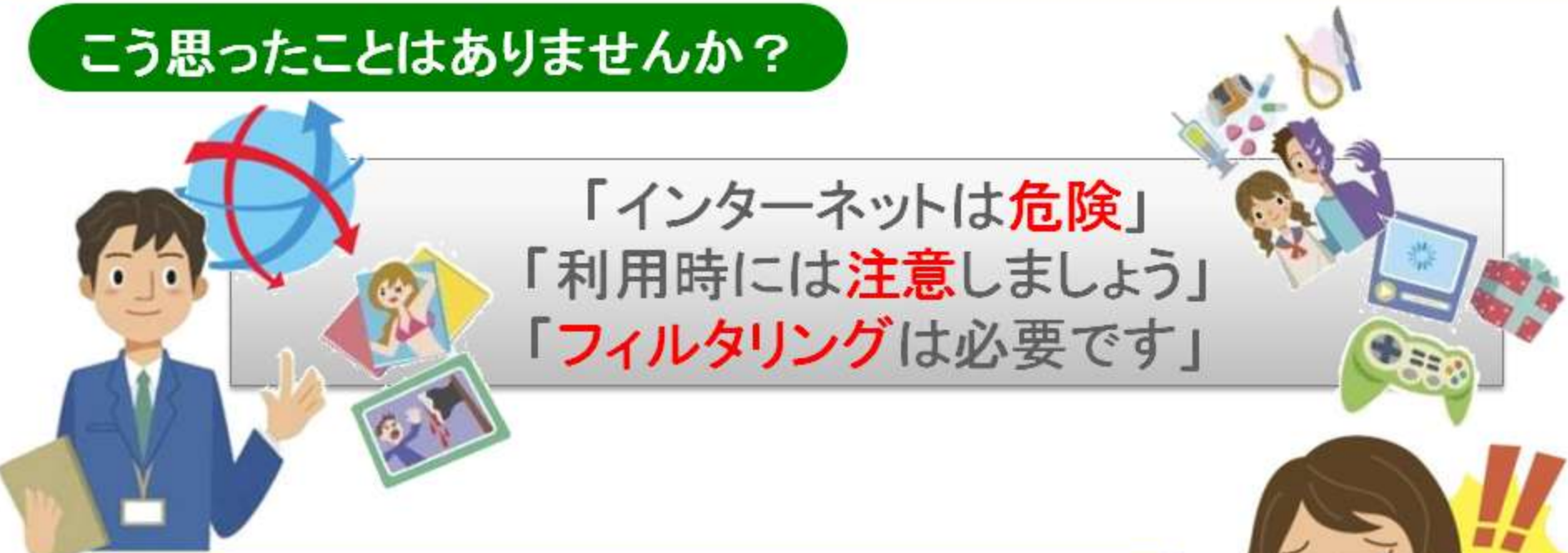


- 本教材は、パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機と多様化していくインターネット機器を安全に利用するための保護者啓発教育用教材です。
- 講座の時間に合わせてある程度まとまった時間をかけて具体的な事例まで解説する「完全版」と、重要なポイントのみコンパクトにまとめた「ダイジェスト版」の2種類を提供しています。
- 「保護者のためのインターネットセーフティガイド」シリーズは、他にも小中学生のお子さんを持つ保護者向け、中高生のお子さんを持つ保護者向けを提供しています。受講者属性や講座の意図に合わせて組み合わせてください。
- 子どもネット研の教材は、どなたでも自由に保護者向け教育啓発にご利用いただくことが可能です。但し、出典または参考資料として「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」の名称を明記いただくようお願いいたします。
- 本教材、研究会へのお問い合わせは、子どもネット研ホームページのお問い合わせフォームよりご連絡ください。<http://www.child-safenet.jp/>

1. メディアとしての「インターネットの可能性」
2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握
3. インターネット接続機器の変化と利用サービスの構造
4. 「インターネット」の4つの誤解とネット社会の3原則
5. 理想的なネットデビューとフィルタリング
6. 保護者に期待される役割
7. まとめ

1. メディアとしての「インターネットの可能性」

こう思ったことはありませんか？



「インターネットは**危険**」
「利用時には**注意**しましょう」
「**フィルタリング**は必要です」

「そんなに危ないのに使わせて平気なの？」
「使わせない方がいいんじゃない？」
「危ないことは解ったけど……どうすればいいの」
「うちの子は大丈夫！」「制限ばかりではダメ！」

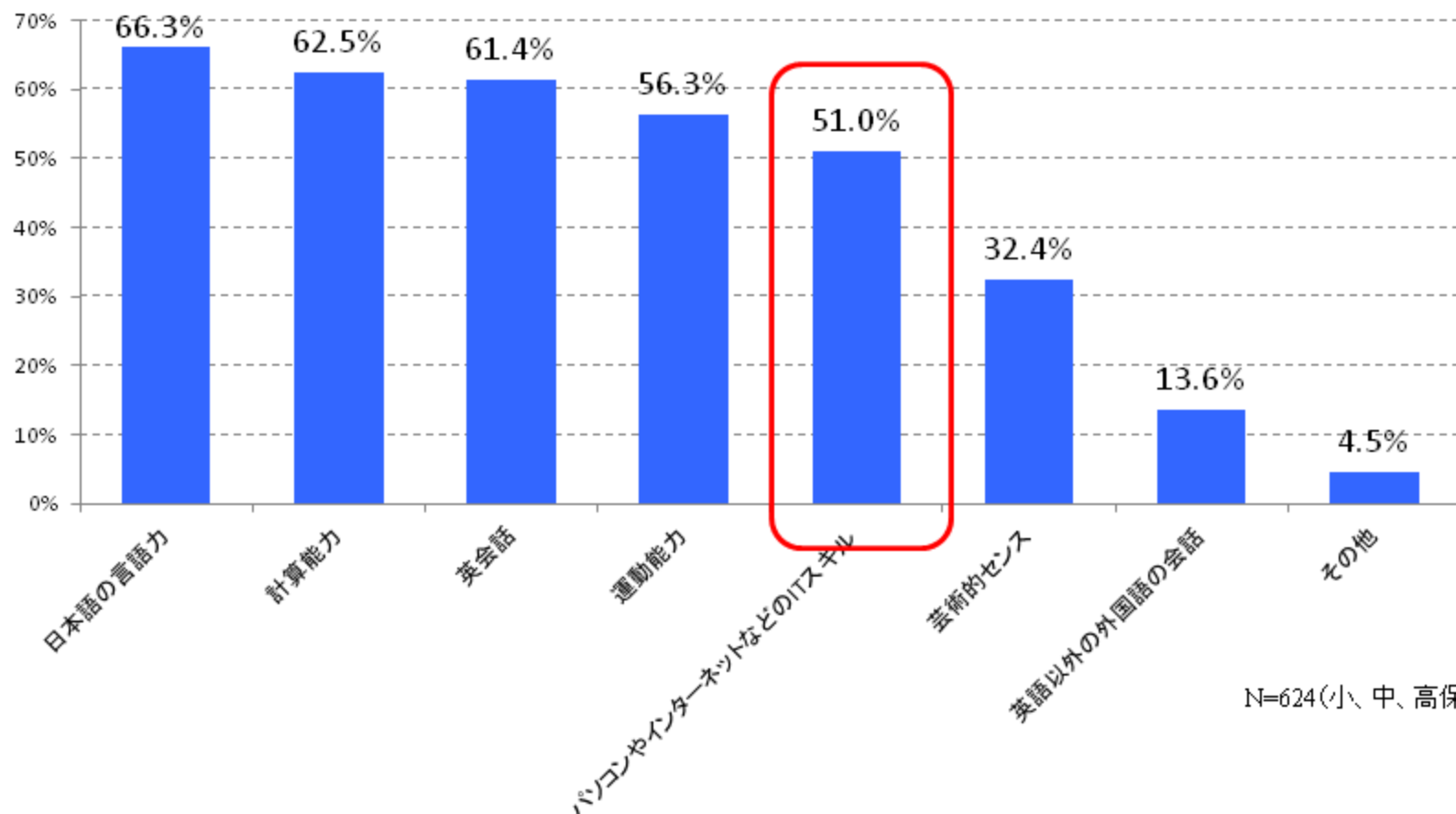
わずか10数年で社会基盤の一部となったインターネット
子どもに「どう使わせるべき」か、保護者の反応はさまざま

1. メディアとしての「インターネットの可能性」

子どもたちのインターネット利用について考える研究会

子どもに身につけさせたい能力・スキル(保護者の期待)

Q. あなたが、あなたのお子さまに身につけてほしいと思う教養やスキルは何ですか？



N=624(小、中、高保護者)

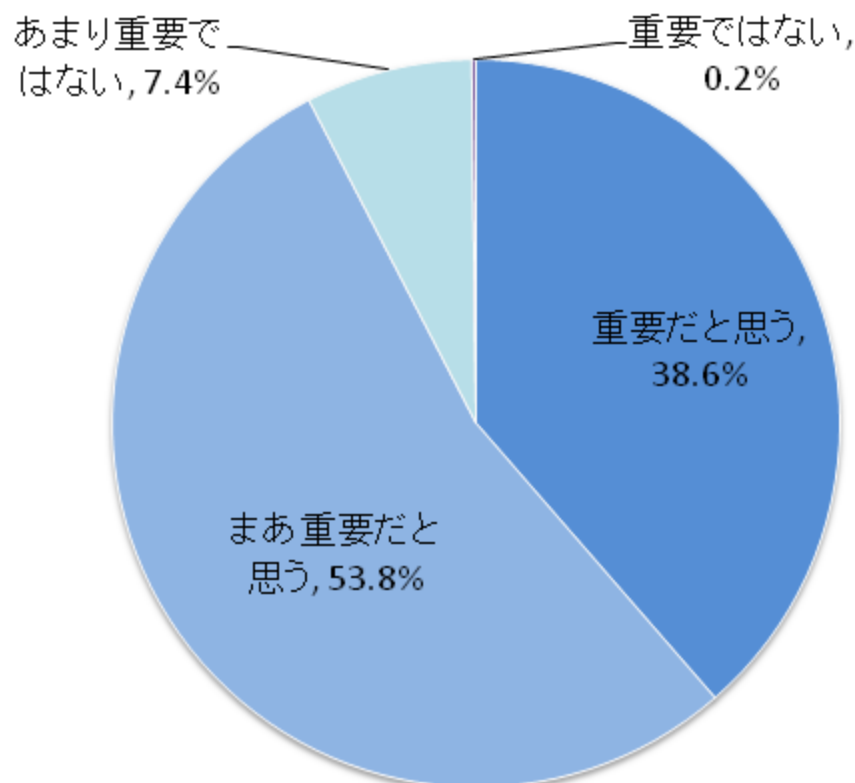
インターネットの活用能力は、「読み書きそろばん」と並ぶ基礎的な社会スキルの一つとなりつつあります

JAPET-MS共同調査「学校でのICT活用についての実態調査」(2012年1月発表)より

1. メディアとしての「インターネットの可能性」

ICT活用能力の重要性(保護者の意識)

Qインターネットやパソコンが日常的なツールとして、生活のあらゆる場面で使われるようになっていきます。あなたは、あなたのお子さまが、このような情報化社会に適応するための能力を身につけることがどのくらい重要だと考えますか。



N=624(小、中、高保護者)

子どもたちが「情報化社会に適応する能力」の習得を重要と考える保護者がほとんど

社会インフラとしてのインターネット

□ 一流の教育に触れるチャンス

国内外著名大学が、授業内容を動画共有サイト上で公開し、誰でも自由に学ぶことが可能に



□ 就職活動の情報収集の幅を広げる

国内大手企業の一部が、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)上で、採用情報発信を開始



□ 災害時の情報共有

東日本大震災発生時、被災・避難・支援のための情報収集・共有ツールとして各種SNSが活躍



子どもたちの利用とトラブル実態の把握



2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握

子どもたちの欲求とサービスの特徴



子どもたちの欲求

暇つぶしをしたい

友だちの多さを自慢したい

異性への興味関心が高い

背伸びをして度胸を示したい

自由になるお金が欲しい



サービスの特徴



ゲーム性が高い



未知の友だちと交流できる



異性と交流できる



危険な香りがする



無料である、仮想通貨を稼げる

2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握

男子と女子のトラブル傾向



男子に多いトラブル

- 腕試しやイタズラ心によるネット犯罪
- ネット上での誇示誇張発言によるトラブル
- サイト上での詐欺被害



女子に多いトラブル

- 生命・身体にかかわる被害
- コンサートチケットやファッショングッズの売買トラブル
- ネット上でのコミュニケーショントラブル



2. 子どもたちの利用とトラブル実態の把握

保護者にとって気付きやすい問題

- 依存性
睡眠不足などの生活習慣の乱れ
- ネット上での詐欺被害
架空請求詐欺や高額請求
- 不適切情報の利用
有害図書的コンテンツへの接触



保護者にとって気付きにくい問題

- 悪意のある大人による「誘い出し」
性犯罪被害
- 不適切な発信
不用意な書き込み、ネットいじめ



子どもたちの基本的な利用スタイル

- 友だちとの連絡手段は通話よりメール
携帯電話は通話のための端末ではない
- インターネットやメールは携帯電話から
「自分専用」のパーソナル性の高い機器を好む
- 隙間時間にブログやSNSを閲覧、更新
友達と「常につながっていたい」欲求が高い



子どもたちの使い方は発信型・参加型
(受信型・閲覧型の大人とは正反対)

利用サービスの構造と インターネット接続機器の変化



3. 利用サービスの構造とインターネット接続機器の変化 子どもたちのインターネット利用について考える研究会

コミュニケーションサイト(双方向利用型サイト)の構造



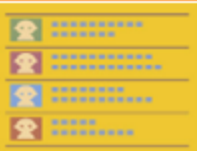
ゲーム アバター

一部のゲーム用アイテムはポイントで購入するものも。アバターとはサービス内の自分の分身。きせかえが可能



サークル コミュニティ

あるテーマのもとにユーザーが集まり、意見交換を行うスペース。掲示板の集合体。



ミニメール

サービス内で利用できる私書箱。知らない相手とサービス内でダイレクトコンタクトをとることが可能。



日記

Web上の日記帳。最近は「ブログ」が多い。リアル(ミニブログ)と呼ばれるサービスも人気。見た人がコメントしたり相互リンク(トラックバック)を貼ることが出来る。



掲示板

「書きこみ」を行うだけでなく、自ら開設・管理を行うことも可能。「学校裏サイト」と呼ばれるサイトの大半が掲示板。



自己紹介

昔は紙のサイン帳やプロフィールカードで行われていた自己紹介がデジタル化。

コミュニケーションサイト(双方向利用型サイト)の構造



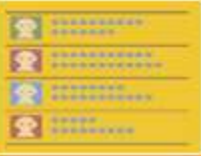
ゲーム
アバター

一部のゲーム用アイテムはポイントで購入するものも。
アバターとはサービス内の自分の分身。きせかえが可能



サークル
コミュニティ

あるテーマのもとにユーザーが集まり、意見交換を行うスペース。掲示板の集合体。



ミニメール

サービス内で利用できる私書箱。知らない相手とサービス内でダイレクトコンタクトをとることが可能。



日記

Web上の日記帳。最近は「ブログ」が多い。リアル(ミニブログ)と呼ばれるサービスも人気。見た人がコメントしたり相対コメント(バック)を貼ることが出来る。



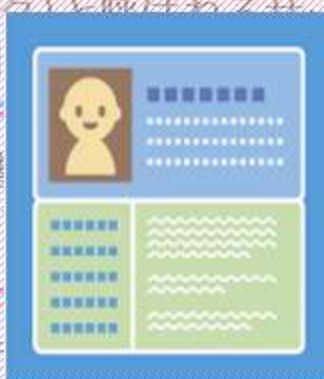
掲示板

「書け、読め、可」と呼ばれるサイトの大半が掲示板。だけでなく、自ら開設・管理を行うことも可能。プロフィールカードで行われていた自己紹介がデジタル化。



自己紹介

プロフィールカードで行われていた自己紹介がデジタル化。



プロフィール
(プロフィールサイト)

3. 利用サービスの構造とインターネット接続機器の変化

子どもたちのインターネット利用について考える研究会

コミュニケーションサイト(双方向利用型サイト)の構造



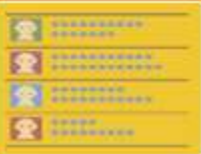
ゲーム アバター

一部のゲーム用アイテムはポイントで購入するものも。
アバターとはサービス内の自分の分身。きせかえが可能



サークル コミュニティ

あるテーマのもとにユーザーが集まる交流を行うスペース。掲示板の集合体。



ミニメール

サービス内で利用できる私用メール。知ったメールとサービス内でダイレクトコンタクトをとることが可能。



日記

Web上の日記帳。最近は「交流サイト(ミニブログ)と呼ばれるサービスも人気。見た人がコメントしたり相互リンク(トラッキング)を貼ることができる。」



掲示板

「書きこみ」を行うだけでなく、自ら開設・管理を行うことも可能。「学校裏サイト」と呼ばれるサイトの大半が掲示板。



自己紹介

昔は紙のサイン帳やプロフィールカードで行われていた自己紹介がデジタル化。



コミュニケーションサイト

概要

- 18歳未満の子どもの半数以上が登録・利用経験あり
- 無料ゲームやアバターの着せ替えが楽しめる
- 利用者間でやりとりができる

問題点

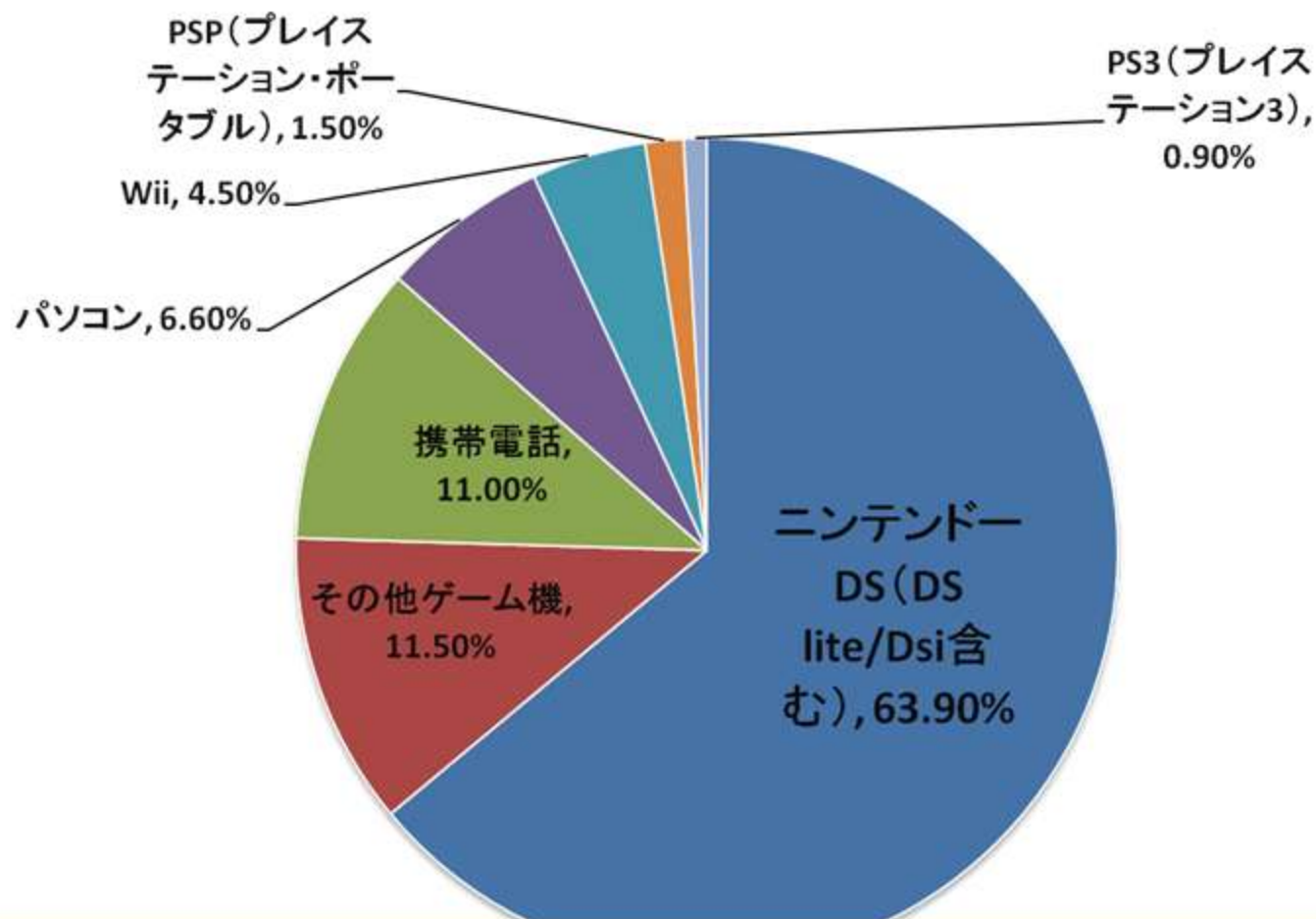
- 過剰にはまりやすい(依存性)
- 年齢が詐称できる
- 実際に殺人事件が発生した例も



3. 利用サービスの構造とインターネット接続機器の変化

子どもたちのインターネット利用について考える研究会

Q.子どもだけで使っている機器の中で、いちばん初めに子ども専用になったもの(機器)はどれですか(単一回答)(n=1750)



子どもに買い与える「初めてのインターネット接続機器」はゲーム機

3. 利用サービスの構造とインターネット接続機器の変化

子どもたちのインターネット利用について考える研究会

「イマドキ」の子どもたちのインターネット機器

携帯電話・スマートフォン
携帯音楽プレーヤー

パソコン(学校や家庭)
携帯電話
携帯型ゲーム機



中学生～高校生

パソコン(家族と一緒に)
携帯型ゲーム機



小学生～

買い与える際にはネット接続を想定していなかった
「隠れインターネット機器」の増加で、
子ども専用機器によるネットデビューが早まっています



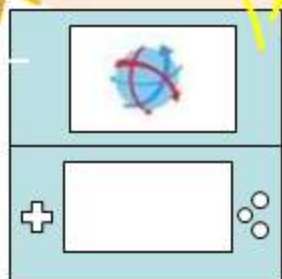
就学前～

急増する「街中」の無料接続環境

無線LAN接続 (Wi-Fi)

家庭・企業等の
無線LAN

パスワード設定無



駅



コンビニ



ファミレス



商店街



ショッピングモール



ファストフード



家庭・企業等無線LAN

パスワード設定有



ファストフードやコンビニ、カフェ、ファミレスなど
無料のWi-Fi接続サービスが急増しています

スマートフォンの普及と今後の課題

□ 「特殊なネット接続機器」だった携帯電話と異なり、スマートフォンはパソコンなどと同じ「インターネット接続機器」です

- 携帯電話で表示できるのは、キャリア独自仕様のモバイルサイトが主。スマートフォンでは国内外問わず、ほとんどのサイトへアクセスが可能に
- 携帯キャリアの通信網だけではなく、Wi-Fi経由でのネット接続も可能に



スマートフォンの普及と今後の課題

- アプリの制限や管理がスマートフォン安全利用の鍵
 - 「不適切なサイト」へのアクセス制限(フィルタリング)は「不適切なアプリ」の利用制限(アプリ管理)が前提に



「インターネット」の 4つの誤解とネット社会の3原則



こんな「誤解」していませんか？

□「大丈夫、知り合いにしか教えてないから！」

インターネットは仲間内の世界ではありません



□「人の噂も75日！ 時間が解決してくれる！」

デジタル情報は劣化せず、コピーが簡単



インターネット社会の「3原則」

- 「“発信の自由”が最大限に尊重されます」
「法に触れない限りは自由」という考え方で発達したメディアです
- 「見る側が情報の真偽を判断しなければいけません」
デマ情報が流通しやすいだけでなく、それぞれの立場から一方的な意見が述べられているケースも
- 「利用者側が自分の身を守らなければいけません」
テレビや雑誌などの従来のメディアと比べ、見たくない情報や不適切なものから身を守るための備えがより必要です



子どもに伝えておきたい対策

- プライバシー情報の書き込みを控えましょう
 - ・ 子どもたちにありがちな「4つの誤解」を解いておきましょう
 - ・ 会員しか利用できないことで、気が緩む場合も
- サイト上でのコミュニケーションに注意しましょう
 - ・ 相手(プロフィール)を簡単に信用してはいけません
 - ・ 個人的なことを安易に伝えてはいけません
- サイトの収益構造について理解しましょう
 - ・ 「無料で楽しめる」理由を子どもに伝えることが大切です
 - ・ 「夢中になる仕組み」への注意喚起も必要です



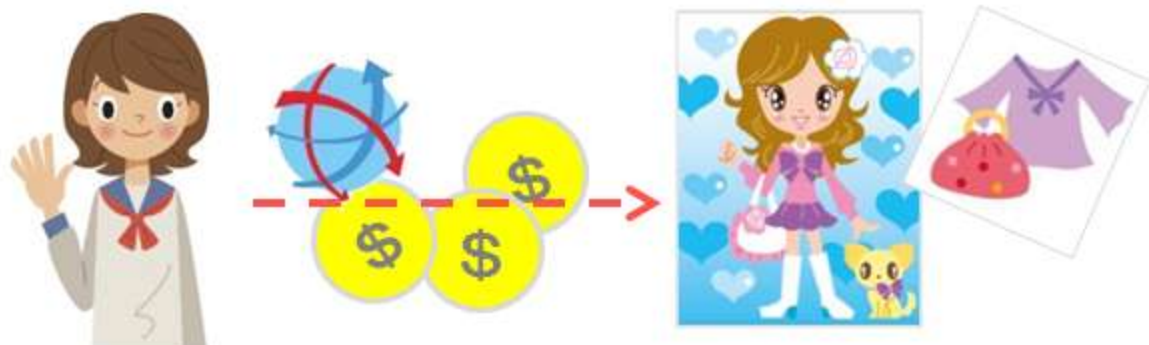
「無料」で楽しめる理由

□ 広告掲載による収入

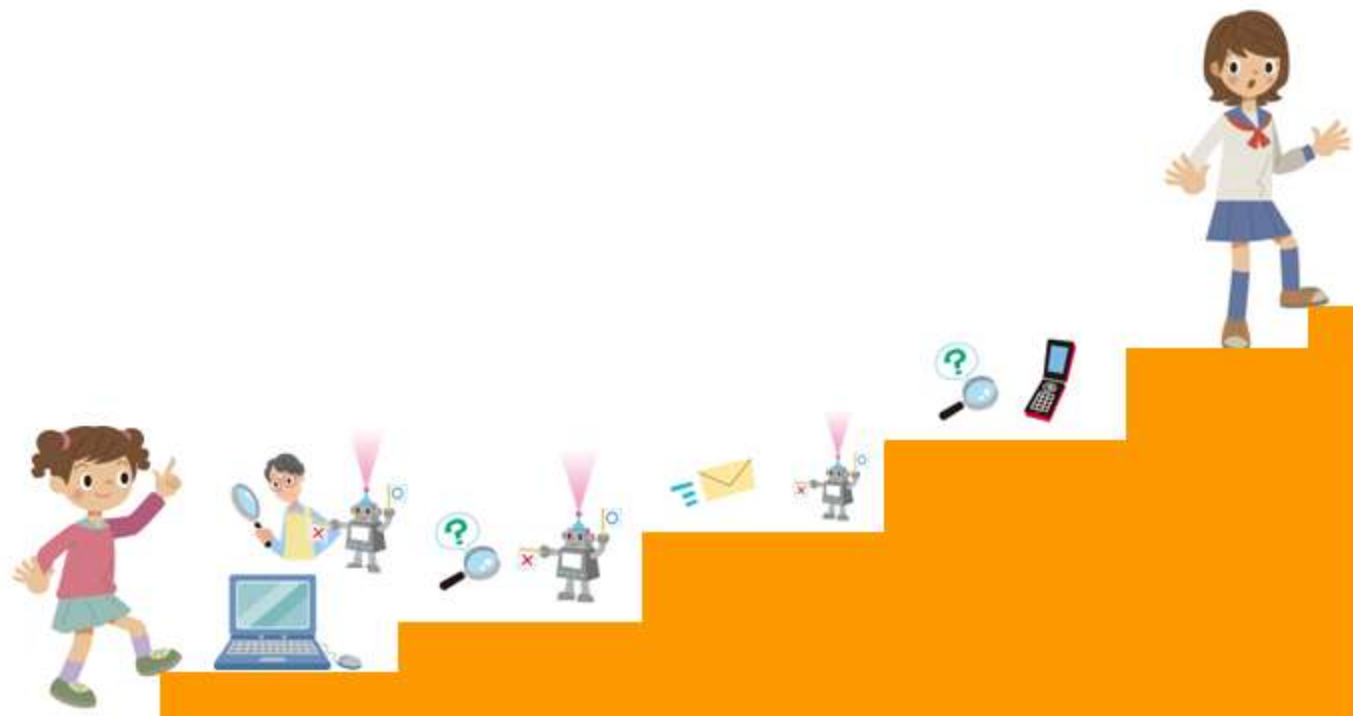
- 会員数やアクセス総数の多さがカギ

□ 利用者へのデジタルアイテム販売(課金)

- ゲームを有利に進めるためのアイテム購入
- アバター(分身キャラクター)を飾る、「服」や「顔」や「髪型」のパーツ購入



理想的なネットデビューとフィルタリング



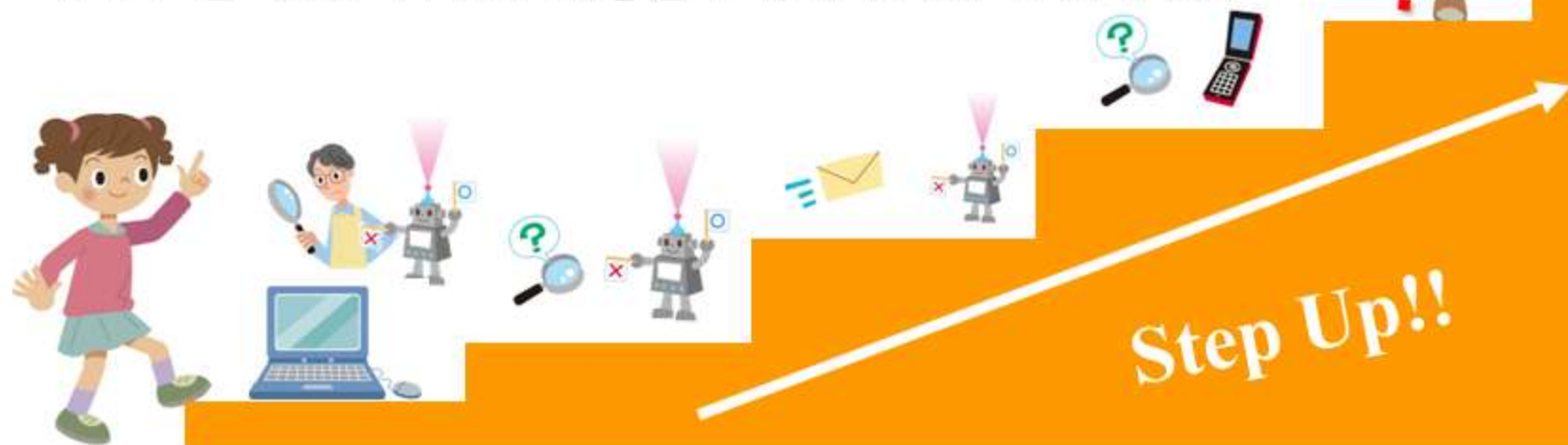
5. 理想的なネットデビューとフィルタリング

正しい使い方を身につけさせるため

「持たせる」 か 「持たせない」 ではなく

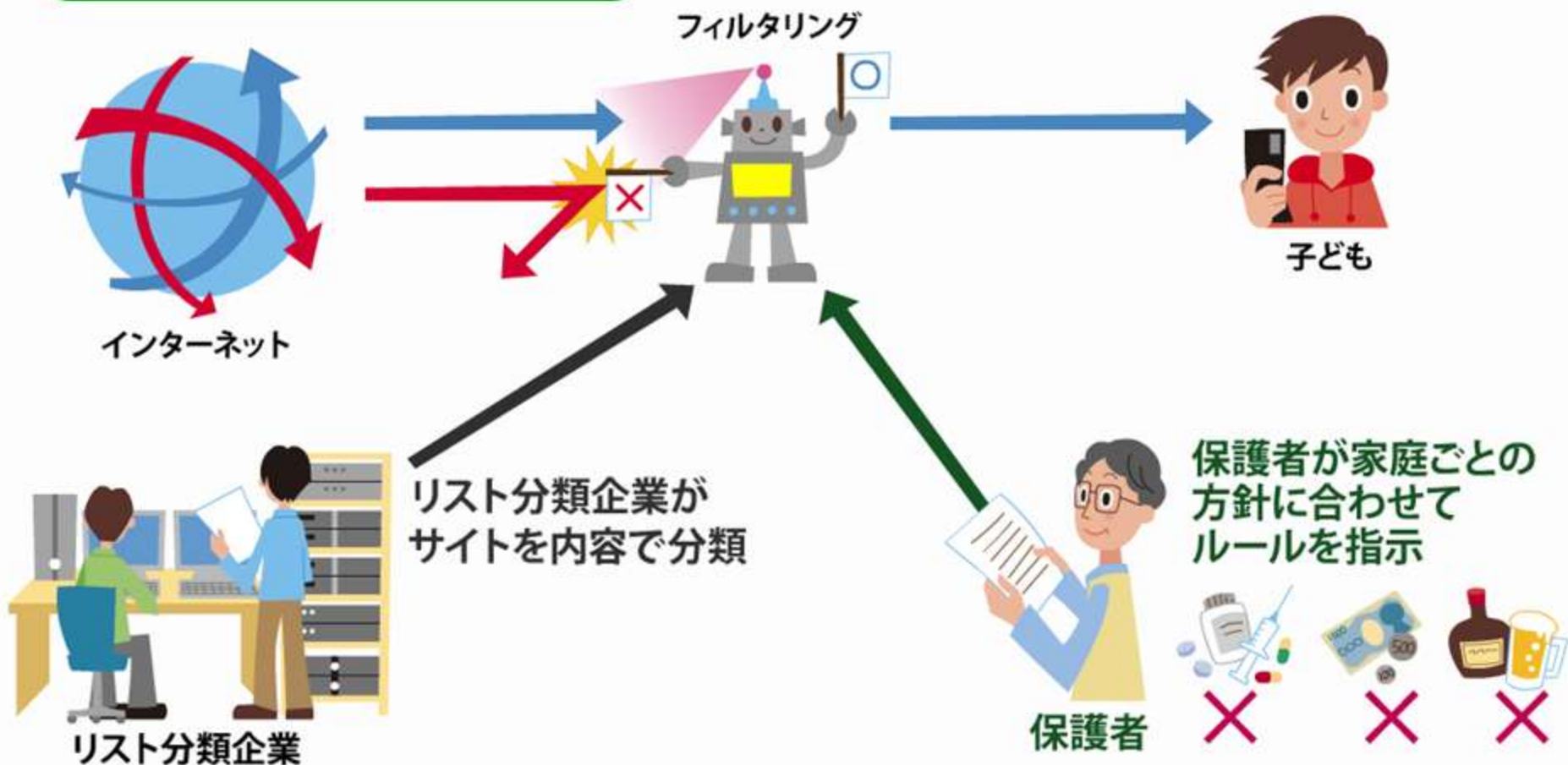


制限サービスを上手に活用し「使ってもよい機能」や「サイト」で区切りながら、段階的に利用させてインターネットを「使いこなす力」をつけさせることが大切



5. 理想的なネットデビューとフィルタリング

フィルタリングの基本



保護者の代わりに、保護者が決めたルールに基づき
子どもを見守り、守るのがフィルタリング

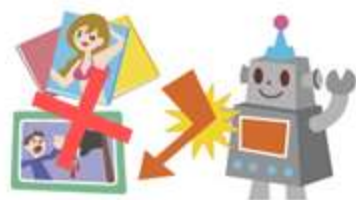
制限できるジャンルの例



熱中・時間浪費の可能性のあるサイト
(懸賞・ゲーム・動画など)



コミュニケーションサイト
(チャット、掲示板、ブログ、プロフ、SNSなど)



本来は成人向きであり、知識・経験・判断力を要するサイト
(グラビア・ホラー映画・超常現象・パロディ・極端な主張など)



不適切コンテンツ・サイト
(違法・薬物・自殺・出会い・恐怖・ポルノ・ギャンブル・飲酒・喫煙など)

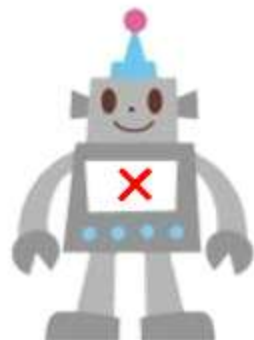
フィルタリング利用方法

□ 制限方式による調整

- ウェブアクセス制限(サイト閲覧はすべて不可)
- ホワイitelist方式(推奨サイトのみ)
- ブラックリスト方式(有害・不適切なサイトは不可)

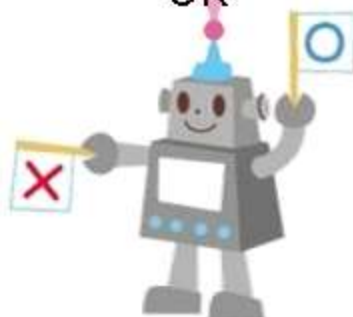


全部NG



ウェブアクセス制限

推奨サイトのみ
OK



ホワイitelist方式

有害・不適切サイトは
NG



ブラックリスト方式

制限 強



制限 弱

フィルタリング利用方法

□ 用途や年齢、発達に応じた調節

- ・ ジャンル別の規制解除や規制追加が可能
- ・ 特定のサイトやその一部分の閲覧許可や、制限が可能
- ・ 利用する家族別にレベルを変えた制限設定が可能



フィルタリングの理想的な活用

- フィルタリングは厳しい制限でスタートし、成長に合わせて緩めていきましょう
- 子どもの興味関心、用途に合わせた調整が必要です
- 「フィルタリングの利用」はゴールではありません。インターネットを一人で安全に使う能力を子どもが身につけることがゴールです



保護者に期待される役割



6. 保護者に期待される役割

保護者への期待と実態

□期待

- 子どもの発達段階に合わせた利用環境整備
- 日常の見守りと指導



□実態

- 苦手意識
- サービスの変化が激しく理解が難しい
- 指導の仕方がわからない
- 問題や危険性に気づいていない

保護者に出来ること

□子どもの能力発達を見極めましょう

- 一般的なモラルやコミュニケーション能力と、情報技術に関する知識やスキルをそれぞれ身につける必要があります
- 子どもの能力や発達はそれぞれ異なります。学齢などで区切るのではなく、日ごろの子どもの行動、身に付けた判断能力などで判断しましょう



「2つの能力」のどちらかが劣っていたり、
欠けているとトラブルを起こすこととなります

保護者に出来ること

□ 困ったときに相談できる相手となりましょう

- 小さなトラブルから学べるように、すぐに相談できる関係を維持することが大切です
- 親は「詳しくないから相談できない」と、子どもが一人で悩みを抱えこまないように、日頃からインターネットや携帯電話利用について親子で会話を心がけましょう



保護者に出来ること

- インターネット利用環境を整備しましょう
 - 子どもの発達段階にふさわしい機器や利用場所、利用機能の選定を行いましょう
 - 安全に利用できるように制限機能（ペアレンタルコントロールなど）や、制限サービス（フィルタリングなど）を活用しましょう



こんな事に注意しましょう

□ 単なる禁止や取り上げでは子どもは納得しません

- 親子での話し合いが充分に行われないうまま、「上から目線」でのお説教、ゲーム機や携帯電話の「取り上げ」を行うことは逆効果です
- 子どもがどんなサービスを使いたいのか、話を聞いてみましょう。時には保護者も一緒に見たり使ってみるなど、理解しようとする姿勢も必要です



こんな事に注意しましょう

□ 放置したり、諦めないことが一番大切です

- 買い与えてしまった後だからと諦めず、必要なルールや注意すべき点を子どもと一緒に考えていきましょう
- リスクの低い利用になるよう、保護者として、子どもの気づきと能力向上を手助けしていきましょう
- 子どもの方が詳しいから大丈夫だろう、うまくやるだろうと「何もしない」ことは危険です
- 保護者の問題の「気づき」について、子どもに率直に伝える事を親子の対話のスタートにすることも有効です

「家庭のルール」を決めましょう

□まずは、子ども自身に考えさせてみましょう

- ・ 保護者の懸念点を、事前に子どもに説明しましょう
- ・ 作成したルールが、保護者の懸念への対策となっているか親子で一緒に確認しましょう

我が家のルール

- ・ 利用時間.....
- ・ 利用場所.....
- ・ 利用目的.....
- ・ 月々の料金.....
- ・
- ・



「家庭のルール」を決めましょう

□ 友人や同級生の保護者と情報交換しましょう

- ・ メールや通話の利用時間帯については、片方の家庭だけで決めても守ることが難しいものです。子どもが日ごろよくやり取りする友人の保護者と連携して行きましょう



「家庭のルール」を決めましょう

□ 子どもの成長に合わせて変えていきましょう

- 子どもの能力向上や、必要となる機能に合わせてルールを変更する「基本方針」を、初めに子どもに説明しておきましょう



まとめ



知ることから始めましょう

- 子どもたちのインターネット利用状況や、機器の普及状況を知りましょう
- 学校で決められている「約束事」を確認しましょう
- 子どもたちの興味関心、利用実態を把握しましょう
- 子どもたちが使っている、サービスを見てみましょう
- トラブルや失敗から学べる環境づくりが重要です
保護者間の情報交換を心がけましょう



保護者同士の助け合いも大切です

- 学校・学級や地域で連携したルールづくり、見守り
- きめ細かい実態把握やトラブル対応
- 押し付けにならない「学びあい」「伝えあい」



子どもたちを護り育てる、さまざまな関係者による連携支援も始まっています

子どもだけではなく、
保護者も学び、変わる必要があります。保護者が正しい
知識を持ち、適切に判断し対処することが最も重要です

インターネット特有の問題は少なく、
本質的には子育ての一環です



子どもたちの インターネット利用について考える研究会

<http://www.child-safenet.jp/>

